

# 麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医保健看護学科

職階 講師

氏名 小野沢栄里

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

# 1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

愛玩動物看護師は、獣医師とは異なる視点を持つ専門職であり、動物看護の視点を意識することが重要である。そのため、授業では常にこの視点を意識し、学生に伝えることを心がけた。

獣医保健看護学科の1期生を迎えた今年度、1年次の担当科目では、愛玩動物看護師の社会的責務や職域を理解することを目的とした授業を展開した。「動物看護学概論」では、愛玩動物看護師の役割を伝え、看護の視点を養うことに重点を置いた。特に、動物病院以外の就職先の可能性を知ってもらうために、グループワークで職業インタビューを実施し、幅広い職域について学ぶ機会を提供した。これにより、学生が自分の適性を理解し、将来の進路選択に役立てることを目的とした。また、「動物臨床看護学総論」や「動物内科看護学」、「動物栄養学」など、臨床に関連する授業科目においては、動物看護師の視点からどのような看護実践ができるかを学生とともに考えながら進めることで、より動物看護師の役割を実感してもらえるように努めた。獣医学科では獣医療倫理・福祉の授業を1コマ担当しており、愛玩動物看護師として獣医師を目指す学生に、動物医療におけるグリーフケアの大切さを伝えた。

これらの授業を通じて、学生が動物看護の視点を持ち、専門職としての自覚を深め、幅広い職域に対応できる力を養うことを目指した。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
動物看護学概論	獣医保健看護学科	必修	1	78
動物内科看護学Ⅰ	獣医保健看護学科	必修	2	74
動物内科看護学Ⅱ	獣医保健看護学科	必修	2	74
キャリアデザイン基礎	獣医保健看護学科	必修	1	78
動物栄養学Ⅱ	獣医保健看護学科	必修	2	74
動物臨床看護学総論	獣医保健看護学科	必修	2	74
適正飼養指導論Ⅰ	獣医保健看護学科	必修	2	74
適正飼養指導論Ⅱ	獣医保健看護学科	必修	2	74
動物形態機能学・臨床検査学実習Ⅰ	獣医保健看護学科	必修	1	78
動物形態機能学・臨床検査学実習Ⅱ	獣医保健看護学科	必修	2	74
獣医療倫理・動物福祉	獣医学科	必修	2	155

## 2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

授業では常にこの視点を重視し、学生が主体的に学べる環境を整えた。

「動物看護学概論」では、愛玩動物看護師の社会的責務や職域について理解を深めることを目的とし、日本におけるその役割を伝えた。また、キャリアデザイン基礎では、社会に出る上で必要な常識やマナーを指導し、研究に対する興味を持たせることを重視した。これにより、学生が動物看護師としての専門性を深めるだけでなく、将来に向けた自己成長の機会を得られるようにした。臨床系の科目においては、動物看護師の視点と役割を現場での動きを合わせて伝えることで、イメージがしやすいように都度心がけた。

これらの教育アプローチを通じて、学生が動物看護の視点を持ち、専門職としての自覚と実践力を身につけることを目指した。

## 3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

動物看護師としての専門性と社会的責任を持ち、自ら考え行動できる人材を育成するためには、教育の考え方と具体的な指導方法が重要となる。本資料では、その実現に向けて、「主体的な学びの促進」「倫理観と実践力の養成」「教育者の継続的な改善」という3つの柱が掲げられている。

まず、主体的な学びの促進として、学生が自ら学ぶ姿勢を育てることが重視される。授業では、単なる知識の詰め込みではなく、学生が自ら考え、答えを導き出せるように設計されている。例えば、虫食いスライドを用いて学生に記入させたり、授業での小テストを毎回実施したりすることで、知識の定着を促進する。また、レポート課題では、単なる授業内容の要約ではなく、「何を学び、どのように活かすか」を記述させることで、深い理解を促す。

次に、倫理観と実践力の養成に向けた指導方法が取られている。動物看護師は、単に医療技術を身につけるだけでなく、動物や飼い主と向き合い、倫理的な判断を求められる職業である。そのため、授業ではグリーンケアといった動物とご家族の心に寄り添うケアも含めて伝えることで、技術だけではない、動物看護の本質的な意味を考えさせる。また、実習やグループワークを積極的に取り入れ、実際の現場を想定したシミュレーションを行うことで、実践的なスキルを磨く。加えて、授業中には学生の名前を呼んで当てるなど、発言の機会を増やし、コミュニケーション能力を育成する。さらに、教育者の継続的な改善も理念実現の重要な要素となる。教育者は、授業の質を向上させるために、定期的に授業改善に関する講習会に参加し、最新の教育手法を学ぶ。また、学生の理解度を測るために、授業後のフィードバックを重視し、指導法の改善に努める。授業の質を高めることで、学生の興味関心を引き出し、より深い学びへとつなげることができる。

### (1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

動物看護学概論の授業の一環で行った、職業インタビュー調査や動物臨床看護学総論では、事例の情報収集を実践するために、グループワークを行った。

### (2) ICTの教育活用

有

授業のオンデマンド動画を授業後に公開したことや、授業資料を事前にポータルサイトを通じて配布し、パソコンやタブレットと利用して授業中にメモを取れるようにした。

## 4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

写真や動画、イラストを授業資料に多く使用し、文字だけでなく視覚的にもわかりやすいように工夫した。小テストやレポート課題を活用し、知識の定着を図るとともに、授業評価アンケートを基に内容を改善。学生との個別面談を通じて学習支援を強化し、理解度向上に努めた。

### (2) 学生の理解度の把握

A

学生の理解度を把握するために、授業ごとに小テストを実施し、基礎知識の定着を確認した。また、レポート課題では単なる内容の要約ではなく、「どのような学びを得たか、そこからどう考えるか」を記述させ、深い理解を促した。定期的に個別面談を行い、学習の進捗や疑問点を把握し、適切な指導を行うことで、理解度の向上を図った。

### (3) 学生の自学自習を促す工夫

A

学生の自学自習を促すために、授業では小テストやレポート課題を活用し、授業内容の復習と応用を促した。授業スライドには教科書の該当ページを明記し、自宅学習時に参照しやすくした。さらに、オンデマンド動画を提供し、授業の復習ができる環境を整備。グループワークやディスカッションを通じて学生同士の学び合いを促し、主体的な学習を支援した。

#### (4) 学生とのコミュニケーション

A

学生との円滑なコミュニケーションを図るために、授業中は積極的に名前を呼び、発言しやすい雰囲気を作った。授業後にも質問に対して対応した。また、個別面談を定期的を実施し、学習面の悩みに対応。これらの取り組みにより、学生が安心して相談できる関係を築き、学習意欲の向上を支援した。

#### (5) 双方向授業への工夫

A

双方向授業を実現するために、学生の発言機会を増やす工夫を行った。例えば、グループワークやディスカッションを取り入れ、学生同士が意見を交換できる場を提供した。オンデマンド教材を活用し、事前学習を行った上で授業を展開することで、より深い議論や実践的な学びにつなげた。

#### (6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

該当なし

## 5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

#### (1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

学生との交流をより積極的に行うように努めた。

#### (2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

学生とのコミュニケーションの頻度が増えた。個別の理解度と全体的な理解度と合わせて、統合的に評価していきたい。

#### (3) (2)を踏まえた次年度の取組

個別対応の人数をさらに増やし、全体的な難易度と進行の程度を考慮して授業を進めていく。

## 6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

これまで、小テストやレポート課題を活用し、理解度の定着を図るとともに、個別面談を実施し学習支援を強化。その結果、学生の基礎知識が向上し、積極的な学習姿勢が見られるようになった。今後は、模擬試験の回数を増やし、試験対策を強化するとともに、グループ学習の機会を増やし、相互学習を促進する予定である。

### (2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

小テストやレポート課題、個別面談の実施により、学生の理解度と主体的な学習姿勢が向上した。学生からは「知識の定着につながる」「質問しやすい環境」との声があり、第三者からも「実践的な学びが促進されている」と評価された。今後もフィードバックを活かし、より効果的な指導を継続する。

## 7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

参加した。

## 8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

今後の目標は、学生が主体的に学び、動物看護師としての専門性と実践力を高める教育環境の整備である。そのために、模擬試験や実習機会を増やし、実践的なスキルの習得を強化する。また、オンライン教材やオンデマンド動画を活用し、個々の学習ペースに応じた支援を充実させる。さらに、学生との個別面談やフィードバックを継続し、学習意欲や進路意識の向上を促す。これらの取り組みを通じて、質の高い愛玩動物看護師の育成を目指す。

## 9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

教育理念・方針の根拠：シラバスや授業資料、授業評価アンケート

授業方法の根拠：授業ノート、グループワーク資料、授業中の写真や動画

学習成果・評価の根拠：小テストの解答および解説、レポート課題

教育改善の根拠：授業改善に関する講習会の参加記録、学生との個別面談記録、Googleカレンダーでの管理